

令和6(2024)年度 第2回栃木県地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

1 日時 令和7年(2025)年3月19日(水) 15:00~17:00

2 場所 対面及びオンラインによる会議(栃木県庁本館9階会議室3)

3 会議名 令和6(2024)年度 第2回栃木県地域公共交通活性化協議会

4 出席委員・アドバイザー 15名/全19名

5 結果概要

(1) 開会

(2) 議題

① 令和6(2024)年度収支予算の補正(案) 【資料1】

事務局から振込手数料の確保に起因する収支予算の補正について説明、賛成多数で承認された。

② 栃木県地域公共交通計画に掲げる施策の進捗状況 【資料2】

③ 次年度以降の取組方針 【資料3】

事務局から計画に掲げる施策の進捗状況、次年度以降の取組方針について説明した。
事務局案のとおり、賛成多数で承認された。

【質疑】

(栃木県タクシー協会)

・下野市での自動運転バス実証実験についてだが、タクシーへの導入は可能か。

→(事務局)

・バスについては全国でレベル4の実装が進んでいると承知しているが、タクシーへの導入は国の動向や、タクシー業界の実情を踏まえながら議論していきたいと考えている。

(吉田会長)

・自動運転実証実験に関する国の補助が10/10でなくなった場合はどのような対応となるのか。

→(事務局)

・国からの補助金は、補助率が4/5となると聞いており、財政負担のあり方については関係者間での議論調整が必要。

(栃木運輸支局)

- ・燃料費高騰に対する支援は、栃木県は手厚いと認識している。
- ・次年度からの取組について、枝となる交通の整理について記載があるが、県のスタンスについては今後検討ということか。また、LRT 開業後のバス網再編などもあると思うが、今後こういった支援を想定しているか。

→ (事務局)

- ・まずは、現状の分析が必要と考えている。事業者と連携し、データ分析していきたい。

(吉田会長)

- ・枝の交通に関して、考え方が不十分とはどういうことか。

→ (事務局)

- ・幹・枝・葉の支援のあり方について、「葉」となる市町村生活交通の補助制度の見直しは行ったが、「枝」となる公共交通については整理が不十分と認識している。

(吉田会長)

- ・枝に求められる機能をどのようにしていくか、考えていかななくてはならない。

(合同会社 MoDip)

- ・デジタル化や、「とちぎの公共交通」のフォーマットについても見直しが必要か。公共交通においてタクシーの重要性が増しているが、タクシーに関する記載がない。

(吉田会長)

- ・「交通空白」に関する議論をさらに深化させていく必要がある。

→ (事務局)

- ・タクシーに関する項目の追加などを含めて、どのように「とちぎの公共交通」を拡大・改善していくか検討する。

(東武鉄道)

- ・日光のオフピーク観光、利便性向上に取り組んでいる。いろは坂がボトルネックとなっている。一般車との棲み分けが必要かもしれない。

(帝京大学・五艘准教授)

- ・データがある分、課題ははっきりしている。混雑状況について、情報発信のあり方の検討が必要。

(東武鉄道)

- ・臨時だと、周知に限界がある。徒歩での観光利便性を上げるのも手か。

④ 生活交通対策部会における協議結果の報告 【資料4】

事務局から本年度開催された生活交通対策部会における協議結果の報告があり、報告のとおり承認された。

(3) その他

(4) 閉会